



ファミリーコミュニケーションデイ企画

あいかわ

自然観察会⑥

終了報告

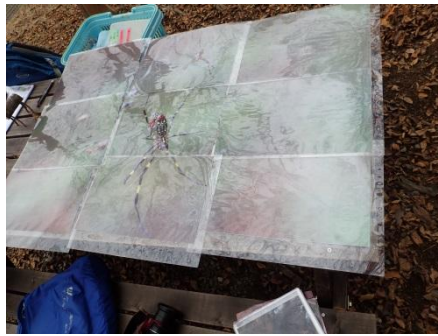
神奈川県立 愛川ふれあいの村 主催事業

12月2日（日）

彩り美しい紅葉の下で、主催事業『あいかわ自然観察会』を開催し、10名の参加者とともに村の生き物を発見、観察しました。今回のテーマは“野鳥観察”です。



生き物並べ替えパズル



ジョロウグモのパズル



モズのはやにえ

はじまりの会では、パズルで緊張をほぐすとともに、村で見ることができる生き物への期待感を高めます。ちなみにパズルの生き物は“ジョロウグモ”。冬の時期によく見ることができる大型のクモです。一生懸命巣を守っているので、枝などを投げ込まないようにしましょう。続いて体育館の方面に下りていくと、枝にコオロギが刺さっていました。モズのはやにえです。はやにえを行う理由は、食べ残し、保存食、縄張りの主張など様々な説がありますが、はっきりとした理由はわかりません。



トゲナナフシ



樹上の野鳥を見上げて



イロハモミジの落ち葉

冬眠中のトゲナナフシ。この時期の虫たちは皆冬眠の準備に入っているため、動きが鈍いです。本来の動きは見ることはできませんが、観察に適しています。ただし数は少ないので、見つけるのには苦労します。



食事中的イカル



カメムシ撮影会



冬眠中のウラギンシジミ

冬の間、昆虫を見かけることは少なくなります。ですが、彼らはいなくなったわけではありません。卵、幼虫、蛹、成虫…様々な形で冬を越しています。とはいえ、彼らにとっても冬の風は冷たいもの。人は家を作り寒さをしのぎますが、彼らは木の中や根本、土の中で冬を越します。カメムシたちは木の皮の隙間に、ウラギンシジミの成虫は木の根元に。近づいても飛び立たない蝶を、子どもたちも興味津々で観察します。



ジャゴケ



トゲナナフシ撮影会



落ち葉の感触を楽しむ

ジャゴケはこするとマツタケの匂いがすると言われています。実際に嗅いでみた参加者からは、「爽やかないい香り」といった声があがりました。普段からコケの匂いを嗅いでみる方は極少数だと思いますが、「いい匂いがする」と言われれば気になるもの。ジャゴケは蛇苔と書きます。蛇の鱗のようなコケを見かけたら、匂いを嗅いでみると面白いかもしれません。



イロハモミジ



セアカツノカメムシ



落ち葉で楽しむ

冬になると多くの生き物は越冬の準備に入りますが、冬でも活動できるのは人間の強みですね。落葉で視界が開け、空気が澄んでいるため、野鳥観察や天体観測を行うのは冬が向いています。気温が低くなれば、雪や霜柱など、冬ならではの自然現象も観察することができます。また皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

【文責：大谷 写真：吉田・愛川ふれあいの村スタッフ】